

教科書編集部便り

インフルエンザが猛威を振るう中、学校では平成23年度からの新しい学習指導要領全面実施に向かう移行措置も行わねばならず、時間の捻出に苦勞されていると伺います。その学習指導要領を反映した新しい教科書は、現在検定審査の最中にあります。また、併行して文部科学省では、学習評価に関する見直し作業も進んでいますし、文化庁からは改定常用漢字表の試案も出されました。変化はめまぐるしいばかりで、必死でしがみついていると振り落とされそうな気になります。

こんなときは、少し引いて俯瞰してみるのも一法かと過去をひもといたところ、次のようなものを見つけました。

光村図書^{かいとうまつぞう}の「国語」を創られた、国語教育学者・垣内松三先生の言葉です。

「新国語」（昭和25年発行）の著者であった先生は、「話す・聞く・書く・読む」活動をか

ざぐるまの4枚の羽にたとえ、その言語活動は「人間力によってしっかりとささえられ、文化を創造しつつ進歩のらせんを描きながら進展していく」と解説されています。そして、「かざぐるまの羽が、あるときには4つのH (Head, Heart, Hand, Health) となって人生の原理を示し、あるときには東・西・南・北となって世界の平和を象徴して回転する」と書かれています。弊社の国語教科書編集を支える理念となった「かざぐるま」に寄せる先生のこの思いは、60年を経た今日、教科を越えて教育が目指す方向をも指し示しています。

「不易と流行」。言い方は陳腐ですが、それを実現するのは至難です。それでもなお、目指す子ども像をしっかりとって、力の及ぶ限りの努力をしていきたいと思いを新たにしました。

お知らせ

移行期間関連資料について

弊社ホームページに、「移行期間関連資料」が掲載されていますので、ぜひご活用ください。
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp/Data/ikou/>

■国語

移行期の年間計画 (1～6年)	現行教科書の単元・教材について、時数や扱い方が変わるところをわかりやすく示した年間計画です。
移行措置資料付「学習材例」 (1～6年)	現行教科書の単元・教材の扱いに、新しい学習活動・指導内容を組み込んで、指導の展開例などを示しました。
移行期の指導に向けて(学年共通)	新学習指導要領の特徴や、移行措置の要点をまとめた資料です。
学習指導要領新旧対照表 (低・中・高学年)	新旧の学習指導要領を並べて表示し、変更された部分や、新規で加わった点をわかりやすく示しました。
移行期の指導のために (学年共通)	「古典を楽しむ」「知って安心『PISA 型読解力』」…など、新学習指導要領の特徴的な部分をピックアップし、解説しました。

■書写

移行措置のポイント(学年共通)	学習指導要領の＜新・旧＞対照表や、低・中・高学年それぞれの移行措置のポイントを示しました。
移行措置資料(1～6年)	移行措置に関連する指導要領の新規事項をわかりやすく示した年間指導計画です。